

韓国社会福祉学会 2023 年度韓国社会福祉共同学術大会 研究発表報告

北海道大学大学院教育学研究院
張 思銘

この度、日本社会福祉学会の審査を受け、済州島にて開催された韓国社会福祉学会の大会（2023年10月20日～21日）において、自由研究発表をさせて頂きました。ご機会を頂き、誠にありがとうございます。

今回の参加にあたり、日本をフィールドにした研究について、韓国の研究者から貴重なコメントを頂き、新鮮で興味深い刺激を受けました。中国人である私にとって、中日韓の交流がこれから大変重要なものとなると思われました。また、同じような課題を持つ欧米諸国の研究についても紹介して頂き、今後の理論展開や研究方法等について、国際的な視野を広げることができました。

さらに、国際的な研究の雰囲気味わうだけではなく、この機会を通して、同じ発表者である日本の優れた研究者とも出会い、とても充実した、良い経験となりました。

今回、私の発表テーマは「日本における高齢寡婦世帯の経済的不利—生活戦略から見るシングルマザーの老後生活における貧困への対応」（科学研究費助成金23K18823）でした。研究の対象者は、日本の高齢寡婦世帯で、ひとり親、女性、高齢者という貧困リスクを高める要因をかかえ、貧困に陥る可能性が高いと考えられます。インタビュー調査の調査協力者は、X市の母子福祉団体Yに所属する、当時65歳以上で、年金を受給し、要介護の状態ではない、合計16人の高齢寡婦です。高齢寡婦が経済的不利に対処するために、就労や成人子の扶養、生活保護を受給するなどの戦略を取る一方、それだけでは所得不足を解消できない場合、支出の面で我慢せざるを得なくなる実態を明らかにしました。最後に、高齢寡婦の貧困は、資源が少ない中で、可能な限り合理的な選択の結果であったが、その選択は、経済的不利と制約された選択肢の中で行われるため、貧困から抜け出すまでには至らないと分析しました。

上記の発表内容を踏まえ、ソウル大学社会福祉学科のパク・ジョンミン先生から、日本の高齢寡婦世帯の生存戦略が韓国の高齢者の生存戦略と、大きな違いがないというコメントを頂き、また、欧米諸国の研究についても紹介して頂きました。自分の研究が、東アジアだけでなく、世界中の共通課題として重要な価値を持つことを改めて認識しました。

最後に、本研究について、ご指導を頂いた北海道大学大学院教育学院の松本伊智朗教授、辻智子教授、鳥山まどか准教授、北翔大学短期大学部保田真希准教授に深謝しております。また、今回発表にあたり、原稿翻訳を担当して下さった安鑫丹さん、現場で通訳して下さった祁暁航さん、そして、韓国社会福祉学会大会開催関係者および日本社会福祉学会関係者を含む、多くの方々のご協力を頂きました。心より、御礼申し上げます。